

令和4年度 第3回二宮町公共施設再配置・町有地有効検討委員会 議事録

【日時】令和4年12月9日（金） 10時00分～12時00分

【場所】町民センター2階 2Aクラブ室

【出席者】

（委員）6名

山崎俊裕委員(会長)、太田久美子委員(副会長)、藤原直彦委員、関野茂司委員、
上田昭紀委員、芦澤恵子委員

（町）志賀政策部長

（事務局）大谷施設再編課長、上原主任主事、内藤主事補

【欠席者】山本秀樹委員、阿部正昭委員、志賀正也委員、尾上正行委員

【傍聴者】3名

【会議次第】

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 議 事

（1）「二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画」の改定について

（2）その他（町民意見募集について）

4. 閉 会

資料1 二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画改定追補版（案）

資料2 公共施設再配置・町有地有効活用実施計画の改定に対するご意見・ご質問について

1. 開 会

2. 会長あいさつ

・本日は事務局の方から実施計画についての改定の資料をご準備いただいている他、ご意見をまとめた資料をご用意いただいております。内容についてはまだ十分に皆さんの方で精査されていない部分があるかと思いますが、限られた時間で、大事な委員会の場になると

思いますので、皆さんから活発なご意見をいただければと思います。

3. 議 事（○委員意見 ●事務局（町）意見）

（1）「二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画」の改定について

●事務局より資料「二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画改定追補版（案）」の変更部分（7～8、43、49～50、53、63 ページ）を説明

○新規に追加された部分は最後の方のホテル跡地に関するものか。

●ホテル跡地の記述が1ページ追加されていて、他は小変更になっている。

●事務局より資料「実施計画の改定に対するご意見・ご質問について」のテーマ①の説明

○当初の計画についてはこれまでいろいろ検討されてきた部分があるが、今後は具体的にどのような形で取り組みがされるのか。見込みも含めて、可能な範囲でご意見いただければと思う。

●実施計画の18ページに記載のとおり、役場新庁舎基本計画としては令和3年度に決定した。新庁舎の基本計画の考え方や場所等は確定したという状況である。これに引き続いて②基本設計・実施設計だが、令和5年度～6年度に建設工事に向けて具体的な設計をしていきたいと考えている。また、この計画の中には用地の取得を示していて、具体的には果樹公園で現在約10,000㎡あるが、こちらを建設用地として取得していく。これも設計と同じ令和5年度に取得をしていきたいと考えている。その後、建設工事が約2カ年にわたって必要となってくるので、令和7～8年で建設工事をする。ご意見でもいただいたが、跡地利用の検討ということで、建設の予算が議会からご承認いただければ、間違いなく移転に目途がつくので、跡地利用の検討についてもこの辺りで考えていきたいというのが直近の時間軸の流れとなっている。

○基本計画がすでに決定しているということだが、基本設計・実施設計を含めて、この2年ぐらいのスパンでやるということではよろしいか。

●その通りである。

○この流れで順調に推移していくであろうという認識でよろしいか。

●その通りである。

○事業者の選定については、プロポーザルにすることも検討しているのか。プロポーザルをするとなると、設計の前段階の令和4年度ぐらいに実施することになるのか。

●令和5年度の前半でプロポーザルをする予定である。

○庁舎の整備というのは着実に進めたいと思うが、私はこの意見にあったように、現庁舎の跡地を駐車場にするというのは駅に近いし勿体ないと考えている。（案）の方には、跡地利用については町民センター、武道館、正泉寺跡地と一体的に検討すると書いてあるが、駐車場が有力というようなことは特に書かれていない。

●新庁舎・駅周辺公共施設再編計画の中において絵で示している。イメージということで、

役場が果樹公園に移転したら、跡地は駐車場の絵になっているが、有効活用していくというように書き方をしている。

- せっかくいい土地なので、皆さんの意見をよく聞いて活用していただければと思う。
- プールの話が出ていたが、プール施設のいろいろな意味での集約化や効率化の話があると思う。こちらについてはいかがでしょうか。
- 駅前複合施設の屋上にプールを統合整備するという意見を出したが、やはり建設費用がかさむとか、水を下から上に持っていくのに費用がかかるというのは理解した。
- 特に都内というか、敷地が厳しいところは屋上利用等もある。一長一短でメリットもあるが、町ではなかなか難しい。
- 駅前の複合施設は、最終的にどういう機能とするのか。そのあたりの話も関連して出てくるかと思うが、これは他と関連するのか。
- 現時点でプールという話は、町としては想定していない。あくまでも町民センターと学校の体育館、武道館、町民センター内にある観光協会など、そういったものの複合化ということで新庁舎・駅周辺公共施設再編計画に素案を出している。来年度以降はスケジュール的にまだ基本構想を作っていく段階なので、そこで様々な意見を伺いながら進めていきたい。
- 実施計画全体について、単体の施設のあり方についての話はよく検討されていると思うが、一方で他の自治体でもそうだが、公共施設の面積を削減しないといけないということがある。行政サービスや公共サービスを何とか維持したいという思いがあったときに、面積が小さくなると、サービスが下がってしまうんじゃないかというような意見が必ず出てくると思う。その一方で複合化や集約化をし、相乗効果を高めていかないとこれからの時代は難しい。行政サービスや公共サービスをある程度維持していくためにはやはりそういう複合機能のあり方そのものがすごく大事になってくる。単体の施設の計画としてはいいと思うが、全体としての複合施設そのもののあり方に関してはかなり大胆というか、新しい複合で相乗効果が出てくるような検討も必要だと総論としては感じている。石巻市も、百貨店のところに庁舎が入っている。最近は公共と民との施設改修や複合化、共存することによって、相乗効果を出すような事例も出てきている。何かそういうような形で複合化の新しい形態のあり方みたいなものが出てくると少し発想が変わるのかなというふうに感じている。
- 事務局より資料「実施計画の改定に対するご意見・ご質問について」のテーマ②の説明
- ソーラーパネルや蓄電池などが出ているが、具体的にどういった場所や施設に導入していくのが気になる。何かイメージがあるのか。
- 国の指針でもあるが、今後の公共施設は基本的にはソーラーパネルや ZEB（ゼブ）などを検討する必要がある。ZEB というのはゼロ・エネルギー・ビルといって、例えば断熱性の高い外壁や窓、自然に気温の変化や換気が有効に活用できるといった、維持管理費を

できるだけかけないで自然エネルギーを有効活用する施設のことである。

- 使うエネルギーとつくるエネルギーをバランスさせるということが、基本の考え方だ。
- 省エネの施設にしなさいという指針が示されている。今は都内でも一般住宅にソーラーパネルを設置しなさいという話が出ているが、少なくとも公共施設に関しては今後、新しくするときには ZEB 化やソーラーパネルを設けなさいということがある。既存の施設については具体的にどの時期にということはないが、やはり国の方針に従うということを見ると、既存の施設でも大規模改修等がある際にはそういったことも積極的に検討していくべきではないかと考える。このテーマの中に上がっている大規模な既存施設というのは、ラディアンや体育館、町民センターは駅前複合になるが、そういった施設のことなので、そういったものも大規模な改修の機会の中では検討を行い、あと既存の施設を ZEB 化していくというのも今、取り組みが始まっているので、そういったことも積極的に検討していくことを考えていかなければならない。
- 既存の建物に対してもこういった整備をするというのもあるが、改築時に合わせて、そういったエコロジカルな住まいや建築にしていくということが、すごく大事かと思う。具体的なイメージとして、例えばエコスクールというのもある。学校施設を長寿命化したり、将来建て替えをするというような場合にもこういったものを積極的に入れていく。ただし、これがかけたイニシャルコストに対してちゃんと回収できるかどうかという財務上のシミュレーションも当然必要になってくる。このエネルギー問題というのは、やはり本当に身近な問題になってきている。町全体として公共施設は率先してこういったものを整備しながら、エネルギーの負荷を下げていくというか、先ほど事務局の方からもあったが、自然エネルギーの活用を本当にやるのかどうか。もう少し言うと車の問題も出てくると思う。車社会をどうするかは我々の中でも本質的な議論が実はあるが、その話まではちょっと置いておく。公共施設の長寿命化、或いは改築をしていく時にはこういったことに対応していくという方針については、皆さん納得されるかと思う。ただコストのバランスのあたりがポイントかなというふうに感じる。
- 蓄電池について、今お話のあった EV で、ということであれば、公用車が EV だったらそれは蓄電池と一緒にという話である。スタンドをどれだけ置かかによって、住民が電化をどうやって進められるかが変わってくる。なので、全体的にどういう再エネをどこで入れて、町民にどういうふうに使ってもらいたいかというようなことを考えていってほしい。それから、非常時にたくさん人が来たときに使うということで、そのためにすごく多くの蓄電池を持っておく通常時は使わなくて勿体ないということがある。その意見をいただきながら 3 日分しかありませんとか、10 日分ありますとか、そこはきちんと示していただきたい。たくさんあればあるだけお金を使うということだと思うので、そういう設計も一緒に伝えていただければいいと思う。
- 先ほど町民センターの跡地は公共施設にしか使えないという話で、駅前複合施設を置くとしてしているところはどうか。

- 確か近隣商業地域だったと思うので、建物の高さ制限もあるが、比較的有効活用できるような敷地ではある。
- 公共のものだけではなく、民も取り入れて検討を行うべきではないか。仮にショッピングモールをあそこに置くと、北口商店街が怒るということもあるので、すごく調整が面倒くさくなると思う。ただ、公のものをあんなにいいところに置かなきゃいけないということもないような気もする。公しか置けないところと公じゃなくても置けるところを、民も入れてどう考えるかというのを、すごく面倒くさいけどやっていただくのが町民の願いなのではないか。町民の願いイコール北口商店街というわけでもないが、北口商店街の人も町民なので、そこは町民としてどちらの意見も取り入れるという過程を踏んだ上で公だけでいいのか、プロセスが大変だと思いつつ、それをやっていただけると、町に対して町民として何か勝手にできたというふうにならないですむと、先ほどの石巻市の例を聞いて思った。なので、こういうものもできますがどうですかと、少なくとも問いかけをし、こんなのがいいあんなのがいいという意見を踏まえて最終的にどうするかという過程を踏んでいただければいい。あまり時間はないのかもしれないが。
- PPP というスタイルで公と民が連携しながら、パートナーシップとして運営していくシステムがあるわけだが、施設としてはやはり公と民も一緒に共存するような施設のあり方というのが、これからの近い将来において現実的にはどんどん増えていくべきではないかと感じている。駅の真方面に公がポーンと象徴的に建つということに対してどうなのかというご意見も踏まえてのコメントだと思うが、やはり公と民が建築的にも一緒に共存するようなスタイルというのが、今まではなかなか難しかった部分があったので、財産管理上の問題などいろいろあると思うが、そういう先進事例がかなり全国的にも増えていることがある。また、集約化をして 1ヶ所に集めるという考え方以外にも、分散しながら地域で連携しながらやっていくということが、情報ネットワークもかなり技術的にも進んできているので、ハード的にも現実的にできるようになってきていると思う。
- あそこに何があったらいいかというのは、きちんと町民に聞いた方がいいと思う。二宮小学校の体育館がないというのはない話だが、武道館があそこにあった方がいいと思う人は、武道館の利用者しかいないと思う。それでは町民に説明がしにくい。何でここに武道館ですか、いや点在していて公のものだったので、というのはちょっと辛いと思う。結果的にちょっとスペースがあるので武道館を入れました、はあるかもしれない。それはもう大幅に町民の意見を入れた上で、この部分で言うならまだ管理コストが減る、それは町民税が減ることに繋がるからいいですよっていうのがあると思う。そういう、どうしたらあそこが町の発展に生かせるかというのを町民から聞いた上でここにこれをという。庁舎が少し遠いわけなので、それとの兼ね合いでここには何をという議論に町民も巻き込んでいただけるといい。
- そのあたりは来年度、基本構想（案）の検討を行う予定であり、今はあくまでも素案とい

う形となっている。

○これで決まっているから駄目と言っているのではなく、我々今この場で何を議論するかというと、民の立場などから何か意見がないかということを知りたいと思っているので、この計画に対してはこういうことも意見としてあるので反映してくださいというのを言っている。考えてないわけじゃありませんという、答弁を求めているわけではない。

●事務局より資料「実施計画の改定に対するご意見・ご質問について」のテーマ③の説明

○山西プールと袖が浦プール、そして現状の温水プールのあり方を含めて、それをどういふふう将来的に再編していくかという、非常に大事な問題になると思う。なかなか難しい側面もあると思うが、計画案では温水プール廃止の場合は、山西プールを大規模改修、設計工事という形になっているが、それをしても将来的にどれくらい改修して持つのが気になる。長寿命化をすとしても、新築や改築のように 60～80 年使えるわけではないと思うが、このあたりにもう少し議論が必要かと思った。

●基本的には大規模改修をするという効果で考えると、やはり 20 年の使用を一つの目標としている。ただ、やはりプールなので建物というよりもプール槽やろ過機など設備の状況もあるので、やはり 40 年、60 年と使っていくスパンでは少し難しいと考えている。大規模修繕にあたって、まずは 20 年間を継続的に施設利用するぐらいのスパンを考えていきたい。その中でまた更なる将来のプールのあり方というのを考えていかなければならない。

○今まで温水プールがあり、他のプールも含めて、水泳をすることについては環境としてはかなり充実していた部分もあったかと思うが、このあたりはどう考えていくか。民間のプールの施設も、いろいろなところで整備されているところもあると思うが、子どもたちの水泳の授業だけではなく、やはり福祉といったいろいろな健康増進のために、こういったプールを積極的に活用していくべきという意見もあるかと思う。プール施設のあり方についてはもう少し慎重に考えて議論していった方がいいと感じる。お金の問題が真っ先にあると思うが、このあたりいかがでしょう。当面は長寿命化をして、山西プールを利用していくという方向はやむを得ない部分もあるかと思うが、逆に 20 年経ってしまったらまた同じようなことが課題として出てくる。先ほどの駅前にプールを、という話があったが、それはどうだろうかというような意見もあるかと思う。

○個人的には温水プールを使っているのだからなくなるのは悲しいと思う。だがフィットネスの器具を入れたりなど、いろいろな策を打って今に至っていて、且つコロナの状況でなかなかマスクもなしに密になるのもという方たちもいて、それもあって入場者もそんなに増えないのではないかという気がしている。なので、今回ご意見をいただいているが、担当課に伝えてちょっとアナウンスして一生懸命プロモーションしてみようという方向に舵を切るという話はないと思う。肅々といつ、どのタイミングで閉めるのが良いのかを決めていくということだと思っている。そういう意味でも町の規模からいけば、山西に1つ

というのが妥当なところかと思う。そうしたときに袖が浦プールの閉め方で、近隣に閑静な住宅街というのは、個人的にはあまりぴんとこない。閑静な住宅街だからと言って、騒ぐ制限はあると思うが、何時までというのを決めればいいと思うので、そのことをもって、やらないという判断は違うと思う。なので、町全体の規模感と学校が使うのに必要なのは、山西プールだけあれば大丈夫というその理由において袖が浦プールはということであって、町の公式な資料に閑静なので、というのはあまりそぐわない。変な話、近くに住んでいる人が嫌だと言え、町の方向が変わるように見えなくもない。そういうこととは関係なく山西プールが、というような方向に最終的には行けばいいと思う。

○20年後にまたプールを再整備しないといけないことを想定した場合、例えば学校が再編されて小中一貫校を施設一体型で整備したときに、プール施設を学校教育と地域の方の利用という形で機能を高めて、学校施設の中にプール施設をしっかりと整備するという考え方も一方にはある。それから温水プールは単独でのプールで、他にフィットネスなどがあるが、本来は体育施設と屋内体育館やプールなど屋外のスペースも含めて、体育施設と連携しながら整備されると一番いい。学校施設はそういう意味では、地域の人も利用できるのであれば、そういう形でもう少し高機能化したり、連携をしていく方法はどうか。町自身、単体で広い敷地がなかなかないということもあって、これまで単発的な公共施設を整備してきた経緯があると思う。実際に人口が減り施設を再編していくときに、大きなものをまとめて集約するというわけではないが、やはり機能的に連携が非常に大事だし、物理的に連携が必要な施設は学校だけの問題でなく、コミュニティスクールや地域の施設として開かれた学校の形で社会教育、或いは生涯学習のための拠点として、そういうプールを入れていくというような意見があってもいいのかと思う。

- 事務局より資料「実施計画の改定に対するご意見・ご質問について」のテーマ④の説明
- 1番のところ、小中一貫教育をすることによって「先生の数が多いことをはじめとした」とあるが、小中一貫にすることで先生の数が増えるのか。規定数というのは文科省で決められている。その中で今の現代の小学校の教職員の数でやっているわけで、それで先生の数が多いということはどういうことか。
- これは小規模校、例えば一色小学校をイメージしていただくと、先生数は子どもの数に応じて決まっている。一方で先生は雑務をこなしている。様々な子どもを見るのに、やはり小規模校は子どもの数で先生が決まってしまうが故に、その点で非常に困っているという話を聞いている。そういった意味で、総数としての先生が多いと様々なところに手が届くという意味であって、一緒にすると先生が、例えば2校が1校になるのに、先生数が10+10で20なるかというところを言っているわけではないというふうにご理解いただければと思う。
- 確かに小中一貫の話をしている時、1人当たり先生の数が増えるという話はあまり出ない。かといって逆に減るという話もあり出ない。今おっしゃった、両方の事務的なこと

が共有できれば、その部分の重なりが増えるので、事務的でないところで支援を見る余裕など、そういう可能性はあると思う。だが小中一貫のメリットとして、担当が増えるのでいいですねという議論はあまりしない。それよりもやはりカリキュラムが流れていて、先生方が皆さん小さい頃から見えている。だから良さも悪さも分かっているという、そっちの方にメリットがある。

- 補足をすると、小学校と中学校で一緒になるということは、小中両方の免許を持っていることで、弾力的に小学校の先生が中学校に教えに行ったり、中学校の先生が小学校に教えに行ったりすることができる。人数の絶対数が変わらなくても効果効率、成果が小中一貫校の大きな教育上のメリットだというのは、文科省の報告の中でもレポートがきちんとある。
- やはり子どもをいろいろな先生が見ることは、すごく大事なことだと思う。ただ、その先生の負担が増えると思うのだが、そういうことはないのか。
- 実際にはまだあまり分かっていない。始まったばかりというものもあるが、移行するときはやはり大変だったというのは大体おっしゃる。ただ移行する時は大変だが、一旦根付けば、例えば中学に来たときに悪くなっちゃうみたいなことが小学校の頃から分かっていると、中学校での生活指導が少なくなったみたいなことで、全体的に見れば減るということも言われている。なので、最初がやはり少し大変というのは、何となくそうなのかなという気はする。
- 1番のご意見の中で、環境が変わらない9年間に苦痛を感じるのか楽しいと感じるのか、というコメントがあった。これは小規模の学校でクラス替えがない場合でも、現状として起きる話だ。文科省の適正なクラスが10人以上というようなガイドで、クラスの編成を変えたりしながら、場所やクラスなどを選択できるということも言われている。そのため、この小中一貫校になった時にある規模がきちんとそこで確保された場合には、例えばいろいろな教室や多目的スペースの場所の選択制を取り入れることも可能になる。もう一つこれに関連して、今STEAM教育というのが話題になっている。高校あたりで、先進的なSTEAM教育を導入したモデル校が整備されている。STEAM教育というのはサイエンスのSと、テクノロジーのT、エンジニアリングのE、アートのA、それからマセマティクスのMを取って、要するに実習や体を動かしながらやっていくような教育を積極的に進めようという動きがある。小中一貫校とは別の話になるかもしれないが、こういう新しい教育の流れが、これは国の方でも議論されているが、やはり手を動かしたりする実体験型の教育、文科省が今どんどん進めているアクティブラーニングがこれと関連するわけだが、主体的に学ぶというような場所の計画をしていくときにある程度の規模があって、これは小規模校では難しい部分がある。そういった専門的な教科を担当できる先生方が、なかなかケアできないところもあると思う。小中一貫校のメリットとして、専任の先生が整備される側面もあるので、逆にSTEAM教育がどんどん進むと子どもたちにとっての場所の選択、高校でも選択制の高校があるけれども、中学校や将来的に小学校でもそうい

う選択的にカリキュラムを選んでいくようなことができる可能性があるのではないかと考えている。

- 今、教育委員会で考えている9年間というのは、その方がいいのではないかという方向で進んでいる。なので、小学校と中学校があるケースと、小中一貫校があるケースというのを町に併存させるというのではないと思っている。1番のご意見の子どもによって小中一貫じゃないのを選べるみたいなことは、施設的にはあまり念頭に置いていない。なので、二宮小と二宮中が一校になっているけど、山西小と一色小と西中は別々で、小学校と中学校を別に行きたい人はこっちに行ってくださいというのは、町の方向性としてないと思っている。もう一つ、二宮小、二宮中が基本的にまずは、最終的に1校になるのは良いが、過渡的に分けるとすれば二宮中・二宮小エリアと、西中・一色小・山西小エリアだと、今施設分離型で始めようとしている。その中で二宮小・二宮中であったならば、二宮小に寄せていくというよりは二宮中に寄せていった方が学区的にもそんな離れてないし、あんなに駅前がいいところだったら、ということだとは思っているので、二宮小側に寄せるという話はあまりないと思っている。
- 小中学校の数を減らしていくというので、それをどこにするかというのは教育委員会で決めることなのか。施設再編課で決めることではなくて、あちらで決まってから使わなくなったところをどうするかというのをまたこちらで決めるのか。ここが余るんだったら、今やろうと思っていることをこっちにしようとかか、その余る場所がわからないと話が進まない感じがする。
- おっしゃる通りで、当初この計画をつくるときから言われている。分かりやすい例で、秦野市ではまず学校はなくしませんという方針を立て、再配置を進めてきている。一方で、二宮町の場合は公共施設の面積のうち約半分以上を学校が占めていて、面積を減らさなくてはいけない。そうすると35%減らさなくてはいけないという中で、学校を避けて通ることはできないというのが、教育委員会も含めて共通認識だと思っている。ただ一方で、この面積を減らすことだけを先行させるというのはよくないとも考えている。まずは子どもたちにどういう教育を届けるのが適当なのかを考える必要があるということで、教育委員会側にいわゆるボールがある状態になっている。その中でも施設統合ありきということではなく、お話を進めていただいた中で、小中一貫の9年間を通した教育を提供することがいいのではないかということで今、議論が進んでいる。その中でその施設をどこに置か、最終的には1校にというお話だが、5校が突然20年後に1校になるのか。それとも段階的に寄せていくのか、というところまでは議論がまだできておらず、地域のコンセンサスが取れていない状況にある。なので、こちらの施設再編課側としてはその議論を待って、空いたところをどうやって使っていくかということを考えていかなければいけない。最初に計画を作ったときは、ある程度ここが空くだろうということも想定していたが、地区の方々と話をしていく、或いは教育の方で話をしていく中で、なかなかそう簡単には進まない。やはり施設側からすると転用しやすい場所や、そういった視点で物事

を見てしまうが、それはよろしくないというのが今の議論なので、現時点で転用、どう使うかというところまでは決めかねている。

- 3年程前に二宮小学区は二宮中、西中学区は西中ですといった案を言ったところ、何で俺のところの学校をなくすんだ、みたいな感じになってしまった。なので、言いたいことは言いたいけれども、そこは戻っている。その結果、今年度の4月に2040年には1校にするということだけはまず決めて、そのプロセスはこれからしっかり議論するということが町民の方にも説明し、それを今推し進めようとしている段階だ。今まさしくこれから、住民の方の反対意見は確実にあるが、こうであるというのをきちんと決めていかないと、逆に何で決めないのかと言われ続けてしまうということもあるので、そこはこれから決めていって、その場合には先ほどのお話で二宮中に移す＝二宮小をどうするかという議論とセットで進めると思うが、それを施設再編課と一緒にやっていくと思う。
- 今、駅前二宮小に体育館を整備したり、いろいろな複合施設を整備することになっている。それは2040年までの間、使う想定で整備することか。
- 体育館だけは広域避難所という役割がある。駅周辺の方々が、万が一の避難する場所として新しくする。それは体育館でなくても同様の規模、収容できるものを再整備しなければいけないという状況があり、二宮小体育館はかなり老朽化が進んでいるので、体育館自体は建て替えをしなければいけないというのがまず根底としてある。それに町民センターと武道館は耐震補強がされておらず耐震性がないということもあり、併せて複合化していこうというところで、そこに併せて他の施設も集約していくという流れで、この駅前複合化の話が進んできている状況である。なので、二宮小学校がなくなっても、この体育館、すなわち駅前複合施設としてそれが残っていくという考えで計画をつくっている。
- 防災拠点として体育館は重要だと思うが、日常の利用はどうなのか。非常時はもちろんそうだが、日常的な体育館として非常に大事な役割を果たすかどうかということが大事かと思う。一方で、他にも体育館がある。町立体育館も老朽化しており、未来永劫使えるわけではないが、そういった耐用年数や、長寿命化を図るにしてもどれぐらいのスパンでそういったものが使えるのか。やはり分からないのがタイムチャートで、2040年というのが小中一貫校の話であったが、このあと20年間でどうするのかという現実的な問題がある。5年スパン、あるいは10年スパンでそれを考えていかないといけないと思う。この時間軸と施設の更新時期と、そしてその機能がどういう形でサポートされるかというのが、やはり町のマスタープラン上で時系列を捉えていくのが、町民にとっても分かりやすいのではないかと。その時の状況によってプラン変更することは当然起こってくると思う。今回の実施計画はこれでいいが、具体的なビジュアルで示しているのか。マスタープラン上でやはり展開していくというのが、これからの大きな課題のように感じる。特に小中一貫校もそうだし、庁舎やプールの問題がある。プールも実際には20年という話がまた出ていたが、20年後には小中一貫校の検討などと併せて、プールをどうするかという話が出てくる。複合化を図るということは、いろいろな公共施設の総合の関係性なども考

えながら、マスタープランに落とししていくということだと思う。

●事務局より資料「実施計画の改定に対するご意見・ご質問について」のテーマ⑤、⑦の説明

○この地域集会施設の「地区」施設という方針は、決定事項ということか。個人的には異論が若干ある。身近な施設として使っていくということと、大事な地域の拠点になるということはあると思うが、日常の利用と非常時の利用というのが連続する部分かと思っている。そこに幅広い世代の人たちが集会機能として集まっていくというのが、本来の公民館的な流れの中で機能してきた時代があったと思う。一方でこの集会施設に関しては、時代の流れとともに利用の形態が変わってきている。情報化社会になって以来、本当に物理的に人が集まって、地域にとっては非常に大事な場所になっている。公民館という名称の方がいいのではないかという意見もあったが、公会堂をはじめ公民館も時代の流れとして本当にいいのか、もう少し議論が必要だ。よく言われるコミュニティセンターという形で使えるケースもあるし、世田谷や横浜では地区センターという言い方をしている、本当にセンターになっているというような意味合いで使われているケースもある。「地区」施設が決定事項ということであればそれでいいが、こういったものが単体として存在する時代ではなくて、連携をしていった時にどうなのか。有機的に連携がされれば必ずしも「地区」施設という、これはある意味縄張り意識的な形になってしまうので、もちろん肝になる部分は施設だとは思いますが、連携や複合化をしていかなければいけない時代の中に、必ずしも「地区」施設というように決定しなくてもいいのではないかと感じている。

●こちらはおそらく、地区というものの捉え方だと思っている。例に挙げていただいた横浜の地区センターというものの地区という場合や、二宮町がよく比較される平塚市の旭地区と同規模、同面積くらいです、人数もというお話をされる。そうすると旭地区センターというのがあったとして、町にある地域集会施設と同じものではない。次に秦野市の例を出すと、西公民館という中学校との複合施設がある。ここの地区は二宮町より遥かに大きく、もちろん公民館なので、きっちり公民館主事によって事業をやっている状況である。なので、二宮町の地区会館は、ここで公民館とのご意見をいただいているが、決してそういったものではなく、地域の方々が歴史上、お祭り等のために寄り合いをする場所、地区集会所でしかないという認識を持っている。使われてきた歴史、建築されてきた歴史ということを考えると、現時点では今ある「地区」施設を維持するという事で、町として未耐震の施設の耐震化を進めている。もちろんこれまでに地区の合併といったことも検討してきたが、やはりなかなか難しいというのが、二宮の今の地区の方々の考えである。二宮町の大きな特徴は、公民館のないところだと思っている。小学校区ごとに、或いは中学校区ごとに公民館を置くというのが、他市町のスタンダードなスタイルかなと思っているが、二宮町はそういった歴史を辿ってこなかった。駅前の一つ公民館があったり、生涯学習センターがある。そこはいわゆる公民館で、あとは地域の集会施設でしかない。そ

うだとするとやはり、今現在行われている地域の方々の繋がりや事業を持続していただくために、地域集会施設として、あるいは防災上の拠点として、現時点では維持していく。ただ、Ⅰ地区Ⅰ施設にさせていただきたい、というお話を地域にしている状況だ。

○Ⅰ地区Ⅰ施設の場合でも、例えば町自身が全施設の修繕等を含めて、将来的にもケアをしていくということでは必ずしもない。拠点としてあるけれど、施設自体を地域に移譲するなど、全面的に町でそれをサポートするというわけではないのか。資料の中にはそのような記載があると思うが。

●そのあたりは今後、地域の方々と議論をしていかなければならない部分だと思っている。現時点でも、町が完全に管理して貸出をしている地域もあれば、地域の方々にある程度の管理費をお支払いして管理していただいているところもある。様々な形態が歴史上残ってしまっているの、そのあたりを整理していくというのは、今後の大事な仕事だと思っている。

○私も二宮町の地域の特徴と言うのか、特性と言うのか。やはり歴史的なことも含めて、それが非常に町の特殊性であり、或いは地域の力を保持するために大事であるということ、他の自治体に倣って整備すべきだというような意見ではない。だからその特殊性みたいなものがきちんと説明できるような形で、それは将来的なバックアップや支援も含めた二宮町の、要するにそれがブランドになるという、言葉が適切でないかもしれないが、そういうようなことで地区の力が他よりも非常に強いという形になってくるのであれば、これは本当に大事にすべきだという意見は持っている。名称のこともいろいろあったが、今何か公会堂というのが整備されるというような話があった。これはやはり公会堂という名称なのか。

●現時点では仮称で付けている。

●何故公会堂にしたかという話から始めると、現時点で公会堂の他に児童館、老人憩の家、防災コミュニティーセンターの4種類を持っている。申し訳ないが、仮称公会堂とさせていただいたのは、単に消去法である。児童館でも老人憩の家でも、防災コミュニティーセンターでもないということ、近々に百合が丘に整備したのが公会堂という名前だったということもあって、(仮称)富士見が丘公会堂ということにさせていただいた。ただ、やはり公会堂という言葉の響きで皆さんがイメージする施設というのは、結構大きなものを想像されていると、いろいろなご意見をいただく中で分かってきている。決してそういう大きなものを造ろうとしているわけではなく、今申し上げている地域集会施設であって、およそ200㎡程度しかないの、公会堂という名前もどうかということで、今後地域と議論しながら、町としても名称を考えていかなければいけないと思っている。

○テーマ⑦の3番のご意見にあるコミュニティーセンターの名称は、少し雰囲気が古いかと思う。パブリックセンターは、もし町で将来的に運用するようなことがあった場合、プライベートで使うときにパブリックが不適切なので、私は割とフラットな地区センターというような感じの名称にしておいた方がよいと思う。時代に応じてそれぞれの機能を

明確に表示する形で名称が付いてきたと思うが、今はそういうものが多様になる時代なので、多様性に対応するような形で、抽象的な名称にしておいた方が対応できるのではないかと感じている。これはまた町の方でも継続して検討していただくということでもよろしいか。

- コミュニティセンターもパブリックセンターも結構大きなものを、公民館的な比較的ちゃんとした立派な施設を想像しがちなので悩んでいる。先ほどもあったように、あくまでも地域集会所なので、地域集会施設と言ってしまえばそのものだが、あまりにもそのものすぎる。検索しても出て来ずに悩んでいるところなので、いろいろなご意見をいただけるとありがたいと思っている。
- もしこの場で何か他にこういうものがよろしいのではないかとということがあれば、ご意見いただきたいが、町民の方に改めて名称募集した方がよろしいと思う。
- それぞれの地区の大きさも人口もバラバラな中でなぜ「地区」施設なのかと思う。「地区」施設＝大きいものを建てたもの勝ちではなくて、公費としては平等に入っているということが言えていれば、この方針はいいと思う。そうではなくて、今あるものを止めてこれは「地区」施設にすると言ってしまうと、全然、何の整合もつかないので、町民側から疑問として出ると思う。なので、地区にある施設は町民にとっての防災拠点であったり、コミュニティを作ってもらおうとする場合には、やはりいる人の数に比例するのは至極当然で、何か物を置いておくためとかだったら面積はいらぬ。なので、何のためですか、防災或いはコミュニティ拠点です、なので人口に比例しているということが言える必要がある。原則と書いてあっていいのかもしれないが、「地区」施設ということよりは、やりたいことは町が地区に置いてあるものを平等なお金で管理をしたい。それによって低減させたいということを引きちんと伝えて、それにはどうできるか。100万円を渡して、あとの100万円は下町さんやってくださいでもいいと思う。それは、いや僕たちできないから半分でもいいですって言うならそれはそれで、それぞれの地区が考えればいいと思う。
- 地域の集会機能に関して、三郷市で地元出身の学生と一緒に地域の愛着度に関する調査をした。やはり居住年数は当然愛着度に関係があり、新しく住んだ方は地域に愛着度があまりない。特に都心に通勤している方に関しては、何かしらの形でイベント等がない限りにおいてはなかなか接点がない。こういった公共施設が、イベントやお祭り、或いは子どものために何かいろいろな活動をするなど、日常生活の中にある意味で機能していく部分が当然ある。それが地域の愛着度、さらには防災意識等にも繋がってくるのではないかとというようなことが分かってきている。そういう意味でも、こういう拠点があるというのは、古い方はいろいろなことでよく分かっていると思うが、新しい方にとっても、新旧住民が新陳代謝していくためにもすごく大事だと思う。そういった意味でも愛される地域の拠点を整備していくということがすごく大事で、ハードの施設だけでなく、そこにいろいろなソフトウェアが乗ってこないといけないと感じている。

○今のは本当に大切なお話である。Zoomで会議ができるのにコミュニティーセンターに集まって会議をするとか、だったらデニーズ行っちゃうよねという話がある中で、何で地区にそういう場があって、どう使って欲しいのかというのが大切だ。今まであったからその延長で、その使い方の役割のままいけばいいということではなく、防災拠点としてやはりそれはそれで物理的に必要だと思う。うちの子とか、勉強しに行きますと、児童館が仮に空いていたとしてもラディアンに行ってしまう気がする。地区に住んだから地区を愛して欲しいけど、地区だと知っている人がいて声を掛けられたりとかもあるからみたいな話もあると思うので、そこにある役割は何なのか、どんなふうに使って欲しいのかというのとセットで考えるということはなかなか難しいが、子ども会等も衰退してしまっている中で、そもそも必要なのかということも考える時期なのかもしれない。

●事務局より資料「実施計画の改定に対するご意見・ご質問について」のテーマ⑥の説明

○1番のご意見というのは、いろいろな町有地に対しての意見か。キャンプ場としてというのは東大果樹園跡地のことか。

●東大果樹園跡地活用協議会によって町民団体の方々を中心に運営されているが、そちらのイベント振興部会ということで、跡地を活用したマルシェやキャンプというので積極的に活用されている状況がある。それをそのまま継承していくというか、より活発にしていってどうかというご意見かと考えている。

○2番目のご意見の小児病院跡地も当初は子どもの館として整備されて、法面のところはアスレチックみたいな形で整備がされる計画になっていたと思う。冒険遊び場ではないが、プレーパークをあそこに整備できないかというご意見で、いろいろな検討をしているグループもいるし、東大果樹園跡地の方がそういうことがやりやすいのではないかと、または、将来的な小中一貫校の施設整備の場所としても可能性があるのではないかと等、いろいろなご意見があるかと思う。こちらについては不確定要素もあるが、いずれにしても町の中で未活用の敷地はかなり多いので、この計画の中にもそのあたりが少し盛り込まれているが、こちらについて何かご意見あればどうぞ。今の小児病院跡地は、実際には何か使われているのか。

●実際には地域の原っぱ的な使われ方をしている。

○管理はどこがしているのか。

●子育て・健康課が管理をしていて、子どものために開放している。

○利用の状況というのは具体的に、そのままずっと続けたい、そういう場所として活用したいということでもなく、暫定的な感じなのか。

●61ページに記載のとおり、マーケットサウンディングもしてきたが、なかなか反応がなかった。ただ昨今、景気の変動等によるものか分からないが、活用について問い合わせが来ることもあった。いろいろな金融機関などを通じて、方向性をさらに広げ、改めてマーケットサウンディングを実施して、事業提案を募集する予定である。ただし、子どもに関

する部分を必ず入れてほしいということは国からも言われているため、子どものための要素を含んだ事業をご提案くださいという方向で進んでいくことになる。

- 今までもそういう経緯でやってきて、あんまり手が拳がってないということか。
- 今までは拳がっていなかった。たまたまかもしれないが、最近問い合わせがあったということもあり、単純にサウンディングをかけるというよりも、ツテをどんどん広げていくとか、マッチングの方法を改めて新しく考え直して、同じマーケットサウンディングでなく、新たな手法で提案を募集していくということを積極的に考えていこうと思う。
- 事務局より資料「実施計画の改定に対するご意見・ご質問について」のテーマ⑧の説明・2番のご意見を踏まえ、5ページを修正した。

※実施計画の内容全体を通したご質問、ご意見

- 実施計画については、マスタープラン上でのいろいろなシミュレーションスタディみたいな形で、実際にその妥当性を検証していく段階だと思う。今回の実施計画には盛り込まないと思うが、やはりそういったことが早急に必要かと思う。あくまでもシミュレーションスタディという形になるので、こうやりますということではないと思うが、そういうシミュレーションスタディがあって、実際の実施計画が検証されていくのではないかと感じている。時間軸で、先ほどから出ていた20年後、2040年ぐらいまでを目指して、そこでの5年や10年軸での、マスタープラン上の施設の再編や再配置、或いは検討すべき課題をマスタープラン上でいろいろ考えていくというのを、全ての施設を同時にそこに入れた段階でやると、連携の問題や近接性の問題、或いは移動のアクセスの問題など、空間上で出てくる問題についての実施計画の中での読み取りにくさが解消されるので、どこかの段階でそういう実施計画のマスタープランという形で反映していただければと感じている。
- シミュレーションスタディの話で、例えば、2018~20年の間に、この施設がこうなってきたという絵があるとすごく分かりやすいと思う。あとはそういうふうに乗ると、予算として設備費の動きが分かるようになっていけると良いのでは。
- そういうものが全てレイヤー上の中に情報が入っているといい。
- その方が分かりやすい。最初に出たときに、例えば温水プールが本当にそれだけ赤字があるんだったら、なぜすぐにある程度計画的に廃止していかないのかと、一住民として思った。先送りになっているのではないと思うが、やはりある程度そういうプランが見えた方が分かりやすいと思う。
- 財政シミュレーションも当然必要になってくる。同時にバックデータが反映されてくると、いろいろな政策決定、或いは町民説明に対してもすごく分かりやすく示せるのではないか。
- 今回は見直しの時期ではあるが5年目のところである。10年目に向けては総合計画の改

定等も併せて、実施計画を大幅に見直していく必要がある。今回いただいた意見を、まさに先ほどの体育館もそうで、機能によっての切り分けや、いろいろな見方が縦横あるかと思うので、そういった部分は引き続き検討していく。先ほどの話でやはり、改めて人口の推計や財政の見通しも変わってくるので、そういったことを踏まえて次の、10年目の改定に対してはやっていかなければいけないと受けとめた。

○町民意見募集の時に、例えば我々委員の立場から町民の方たちに少しご説明をする場を設けるなど、そういうことはやってもいいものなのか。

●この会議と資料は公開されるので、一個人としての考えを説明されても問題ない。

●また改めて、パブコメの中でご意見をいただくことも可能である。

○単なる施設の再配置ではなく、町づくりや町民の生活をどうやって充実させていくかに直結すると、この3回の会議を通じて感じた。引き続き、より良いものにしてほしい。

○初めてこういった会議に参加したが、行政の方も大変だと感じた。住民一人一人の声も聞かなくてはいけない部分もあるし、けれどやはり決断するところは決断し実行していかないと、進まないのかなということも感じた。

○例えばスポーツ施設だと予算が書いてあるが、この規模のそれぞれの施設ごとに分けると幾らずつなのかは、どこか見に行ったら分かるのか。例えば39ページの教育施設で、更新・改修費の予算が書いてあって、これの二宮小学校は幾らでというので、これは合計値だと思う。なければいけないでかまわない。

●根拠にしているものはあるが、基本的な考え方は面積×㎡単価で出している。例えばその3割を削減し複合したらこうなる、というような計算をしている。数字が一人歩きをしがちで、後々まで影響を及ぼすような数字にどうしてもなってしまうので、個別の数字をお示しすることは避けている。

●35%を削減するためには、統廃合を仮定して数字を出している。まだその算出根拠を出せる状態ではない。なお、考え方は表の下の※に示している。

○財政シミュレーションというのが、特にコロナ禍の中でなかなか予測が難しいというような話を他の自治体でも聞く。短期中期長期とあると思うが、町の方の財政予測は、コロナ禍のビフォーアフターでかなり変わったのか。

●実際問題、決算の資料として、シミュレーションまではいってないが、直近の施設改修予算を見込んだ財政計画をお示した。そういった中で二宮町の場合は、収入の構造がいわゆる個人町民税と、それを補填する地方交付税が主である。法人税の占める割合が非常に低いので、財政が確かに硬直はしている。弾力性には欠ける一方で、景気の変動による大きな変動はなく、入りとしては割と安定している。ただ微減しているという事実は、年齢層が上がって働いている方が減っているのが当然ある。それは確かだが、国の方の景気も今は悪くないので、交付税できちんと入ってきている状況がある。なので、数年で急激に歳入が減ることは想定していない。ただ、厳しい状況は変わらないので、依然としてやり

くりが必要である。

- こういう場で教育委員として少しはお役立ったのであれば良かったと思っている。先ほどご質問いただいたように、教育委員会でちゃんと決めないから再配置側でちゃんと計画できないというふうにならないように、教育委員会でも検討を進めないといけないと思う。ただすごく思うのは、やはりそれを1個1個でバラバラに説明すると町民の方もご納得いただきにくいので、こういう時期にはこれを決めないと最後大変ですということ、セットでお話をしないとイケないということを改めて思った。
- この委員会で貴重なご意見もあったと思う。先ほど三郷市の愛着度の話があったが、その思いというのが公共施設の中でとても大事だと思う。裏話で、今週の火曜日と水曜日に荒川区のゆいの森あらかわという図書館をベースにした施設で、子育て支援といったものを複合化した施設を、2日間学生と一緒に滞在して見せていただいた。入口でもアンケートを置き意識調査をしたが、驚いたことに利用される区民の方がものすごく絶賛していて、アンケートの文面を見ると愛情に溢れたコメントが多かった。やはり、ハードだけではなくて、実はそこは特別な単体の所管ではなくて、それをサポートする専属の部署を作って、普通は指定管理として大体外に出すケースが多いのだが、そこは直営でやっている。朝の9時から夜8時半まで、役所としては2交代制で土日もフルにやっているのだからかなり変則的な、しかも行政直営でやっていて、そこに特別な課を作って運営されている。一日約2,500人ともものすごい数の利用で、二宮町のラディアンもかなりの利用者がいると思うが、やはり愛着を持ってそういう場所に人が集うということの良さを改めて再認識した。場が人をつくり、人がまたいろいろなご縁をつくるのではないかというふうに思った。特に高校生ぐらいのアンケートでとても素晴らしい意見が寄せられていたのが印象に残っている。学生もそれを大変感動して読ませていただいた。なので、これからの二宮町の将来の新しい公共施設の再編という、今まであった施設を計上するというだけではなくて、新陳代謝をして新しい場がまた次世代の新しい力を作るようなことを、私も祈念をしている。多分、二宮町の方々は地域に対する愛情を深く持っている方が多いと思うので、新しい化学変化が起きると良いと思っている。

(2) その他(町民意見募集について)

- 本日、会議資料としてお示しさせていただいた「実施計画(改定追補版)」の(案)については、来年1/4～2/3の期間で町民意見募集を行う。町民意見募集については、町HPや広報で周知をする。計画案については、町HPに掲載するとともに、役場やラディアンなどの施設でも閲覧できるようにする。

4. 閉 会

以上